

## わが国との比較でみる中国の中小企業金融の現状

西尾圭一郎（松山大学経済学部）

西村友作（对外経済貿易大学）

リーマン・ショック以降欧米諸国では経済停滞が生じている中、中国をはじめとする新興国が世界経済の新しいけん引役として期待されている。その経済発展において、中小企業は非常に重要な役割を果たしているが、中国の中小企業の資金調達環境はあまり芳しくはない。そこで本稿では中国の中小企業金融の厳しい現状を整理し、わが国の中小企業金融の現状と比較したうえで、今後どのような形で中国の中小企業金融が発展していくべきか検討した。

企業の資金調達方法としては、市場や投資家から直接資金を調達する「直接金融」と銀行等の金融機関からの融資に代表される「間接金融」に分類される。直接金融については、中国の多くの中小企業にとって証券市場での直接的な資金調達は極めて困難な状況にある。高い上場基準や高コストといった問題から、中小企業がメインボードや中小企業板に上場するのは難しい。また債券市場を見てみると、審査の過程において国家発展改革（発行枠を管理）、中国人民銀行（利率を管理）、中国证券监督管理委员会（証券発行を管理）のすべてから批准を受ける必要があり、手続きが非常に煩雑となっていることから社会的信用が比較的低い中小企業による債券市場での資金調達もまた困難となっている。

そのような状況から中国の中小企業金融はわが国同様間接金融が中心であるが、金融機関の貸し渋りが生じているため銀行から融資を受けている中小企業は数少なく、民間信用に頼る企業も多いなど、中小企業の資金繰りは厳しい。『中国中小企業 2010 年藍皮書』によると、資金を十分に有している中小企業は全体の 12%に過ぎず、資金不足の企業が 80%を占め、その内の約 20%は「非常に不足している」状態にある。そのような状況は中小規模の金融機関が存在せず、政策金利も高いという構造的要因と民間企業の低い信用という企業側の要因とによって形成されている。

一方でわが国の中小企業金融は地方銀行や信金など、すそ野の広い金融構造の存在とリージョンシップ・バンキングによって支えられている。今後、中国が安定した経済発展を続けるためには、中小企業をとりまく資金調達環境の整備が不可欠であり、中小企業金融の担い手としての地域金融機関や中小の金融機関といった多層な金融機関の育成が必要であるため、わが国の中小企業金融は大いに参考になるだろう。